

学校名	大分雄城台高等学校
-----	-----------

前年度評価結果の概要	<p>○学校全体が落ち着き、服装・頭髪指導やあいさつ指導が徹底してきて、雄城坂でのあいさつも自然とできるようになってきた。</p> <p>○地域や中学校からの評価も高くなり、周辺の中学から上位層が入学してきた。</p> <p>○家庭学習時間が各学年不足している。文武両道を目指し主体的な学習ができるよう、授業改善及び課題の内容や与え方、課題考査の工夫が必要である。</p> <p>○たくましく自立した生徒を育てるために全職員で議論をし、学校が一つになり生徒を育てていく必要がある。</p>
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
「誠実・自主・創造」の校訓のもと、混迷する社会において、逞しく生き抜き、社会をリードし、積極的に貢献できる生徒の育成を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 真剣な学習活動と活発な部活動を通して、文武両道を推進する。</li> <li>2 信頼関係に基づいた、手厚い生徒指導と積極的なキャリア教育により、心豊かで、尊敬される人間形成を推進する。</li> <li>3 確かな学力の定着と3年間を見通した進路指導により、進路希望の達成を目指す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力向上と3年生全員の第1志望校の合格を目指す。</li> <li>2 高い規範意識を育む中で、生徒自身の自立を促す。</li> <li>3 分掌システムを有効に機能させながら、それぞれの業務内容の確認とさらなる向上を図る。</li> <li>4 創立50周年に向け、県下ナンバーワンの進学校としてシステム作り、基盤作りに取り組む。(10年間の学校推進プランを計画する。)</li> </ol>

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価		
					評価	重点的取組・取組指標の実践				
1 学力向上と3年生全員の第1志望校の合格を目指す。	第1志望校合格に向けて進路意識・学習意欲の向上、自主的・自発的な学習力を身につけさせる。	①3年間を見通した進路達成計画を作り、各模試毎に第1志望校合格に向けた達成状況の分析会を開催し、個人面談に繋げる。 ②進路講演会や総学の時間を使い、進路意識の啓発に取り組む。	①3年間を見通した進路達成計画を作り、各模試毎に第1志望校合格に向けた達成状況の分析会を開催し、個人面談に繋げる。 ②進路講演会や総学の時間を使い、進路意識の啓発に取り組む。	PL 文武両道推進部長、人間力育成部長 SL 各課長、学年主任、HR担任	3	○部・課内での各模試に関する事前指導、事後指導も概ね計画通りにできている。 ○全職員による対外模試検討会を実施。3年次生の現状の共有はできている。生徒による模試の振り返り(自己分析や志望校分析)を継続して実施している。 ○全県模試に替わる校内模試(第1回雄城高模試)を計画通り実施し、検討会議による分析も実施できた。 ●1、2年次から高い進路目標を持たせるために、県教委やOSSコンソなど外部の行事に積極的に参加させているが、本校生徒の特徴に合った指導システムの構築も求められる。	・3年間を見通して各分掌・学年の取組を関連づけた、本校キャリア教育・進路指導の全体指導計画を整理・共有し、実践していく。 ・難関大志望者の目標達成を支援するため、アドバンスクラスにおける進路指導、学習指導の特色化を一層推進する。	◇生徒の掲げる進路目標が、やや物足りない。低学年時から、自らの可能性に自信を持たせ、より高い志を持てるように指導してほしい。そうすれば、学習時間も自ずと増えるはずである。		
						○平成26年度授業改善のポイントを職員会議で提示。方向性の共有を図った。 ○授業探求週間は6月(3週間)、10月(4週間)の2回、学習指導課が提示した授業観察の視点をもとに相互授業参観を実施した。 ○管理職による授業観察を7月から11月に実施ほぼ終了した。授業観察の後に必ず面談を実施し、課題と改善策について話し合いをもった。 ○本校独自の雄城高模試を5教科で作成し6月、8月に実施、分析検討会まで行うことができた。 ○各教科の研究授業計画を確実に実施し、教科ごとに授業改善の方策について協議を行うことができた。 ●生徒による授業アンケートは予定どおり実施。全教員の平均が100満点の79.7と前期に比較して低下した。授業のねらいや内容についての説明のわかりやすさについてのポイントが低下している。			・生徒による授業アンケートの結果を各自が分析し、課題を改善する具体的な授業実践を行う。 ・基礎的・基本的な知識技能の徹底と思考力・判断力・表現力の育成のバランスのとれた授業への授業改善に引き続き取り組む。 ・本校独自の進学力判定指標の確立を目指し、雄城高模試の改善・充実に努める。	◇特にアドバンスクラスの生徒には、高い目標とプライドを持たせてほしい。
						○学習指導課が学習時間調査で部活動ごとの集計・分析を行い、実態を全教職員で共有するシステムが動いている。 ●家庭学習時間の確保については、各学年の最低学習時間の目標が達成できておらず、特に長期休業中の学習に課題について、生徒への意識調査をとって原因を探り、職員会議で分析結果を共有した。			・学習指導課・特別活動課を中心に、家庭学習時間の目標達成のため、クラス担任、各教科担当、部活動顧問の協働体制づくりを行う。 ・部活動時間と学習時間の双方の確保のための基本的なルールの再確認と徹底をはかる。	◇2年生の修学旅行における、首都圏で活躍中の同窓生との交流の取り組みは、将来の目標を考える機会となる良い取り組みであった。
						○「見逃さない指導」「授業を大切に5箇条」の取組の教員間の足並みはそろっており、生徒の授業態度は向上した。 ○「文武両道」への意識を高める部活動生集会は、高校県体や各行事のタイミングを見計らって第1回を5月、第2回を6月、第3回を10月に実施し、一定の効果もあげている。 ○学習時間調査の部活動別集計により、部員の家庭学習状況の把握、指導が行われた。 ●大会出場届け等の提出が遅いなど、部活動顧問と学年や教科担任との連携が徹底しない面があったが、特別活動課の努力により改善されつつある。			・各大会や学校行事の節目に部活動生集会を開き、文武両道のモチベーションを高める。 ・部顧問が大会出場等での授業公欠の情報を、早めに学年や教科担任に伝え、公欠者の学習補充を確実に行う体制をつくる。	◇雄城高模試の取り組みはよい。出題の妥当性などを検証しながら、生徒にとって役に立つテストにしてほしい。
2 高い規範意識を育む中で、生徒自身の自立を促す。	「雄城坂をあいさつの坂にする」ことを定着させ、「あいさつ」+「ひとこと」運動を実施する。	①新入生のためのマナー講座と全校生徒に向けてのマナー講演会を実施する。 ②教職員が最高の挨拶をしてみせる。	①新入生のためのマナー講座と全校生徒に向けてのマナー講演会を実施する。 ②教職員が最高の挨拶をしてみせる。	PL 人間力育成部長 SL 各課長、学年主任、HR担任	3	○「雄城坂を挨拶の坂にする」ことは定着しており、外来者からの評価は高い。校内でのあいさつもかなり充実してきた。 ○校内でのあいさつについては、元気の良さや爽やかさの点で一層の向上を目指したい。 ●教職員の「あいさつ」や「ひとこと」の声かけが十分ではないとの指摘が、生徒・保護者からあげられている。	・「師弟同行」の精神に基づき、まず職員が生徒とともに「あいさつ」「校内美化」に取り組む。 ・生徒会活動をととして、「あいさつ」「校内美化」の運動を推進する。	◇生徒のあいさつやマナーはよい。生徒の主体的な取り組みを一層進めてほしい。		
						○頭髪・服装検査を予定通り実施でき、全体的には落ち着いた学校生活が送れている。 ○保護者に対して、7月～9月に全学年で「携帯・ネットトラブルに関する講演会」を、PTA役員とネットパトロールを9月に実施。全校生徒に対しても、ネット安全教室を11月に実施した。 ●大分南署から「交通安全教室」を実施したが、軽微ではあるが自転車事故が発生しており交通ルールやマナーの指導徹底が必要であるため、2月末に再度、1年生を対象に自転車安全教室を実施する。 ●携帯持ち込みの事例が散見され、指導を行った。	・部・課内での連絡調整を密にし、学年間の指導の差が生じないように全職員での見逃さない生徒指導をより充実させる。 ・保護者の協力を得ながら携帯使用のルール・マナーの徹底に引き続き取り組む。 ・自転車通学生の交通ルール・マナー向上のために、意識啓発や実際の交通指導等を再度実施する。		◇メモを取る力は、社会人になっても必要であるので、OGIメモの取り組みを一層充実させてほしい。今年度のコンテストの取り組みは良いアイデアである。	
						○いじめ発見のための先の先(家庭版)昨年度作成、学年会議での情報共有や学校と家庭の連携に活用し、予防的生徒指導ができています。 ○第1回、第2回ともにQU調査の学級生活満足度の平均が60%を超え、全国平均を大きく上回っている。 ○第1回QU調査のあと、県教育センター教育相談部長を招聘し結果の分析・活用方法にかかる校内研修を実施した。 ○第2回QU調査の後、学校生活不満足群や要支援群への指導について、拡大学年会議で共有した。	・教職員が・学年会議(HR担任会)で議論された生徒情報は、学年所属、授業担当まで伝えるようにする。 ・各種調査の結果、問題の芽が発見された場合、人間力育成部(生徒指導課・保健課・人権教育課)と当該学年部を中心とした連携のもと、具体的な対応策を速やかに行う。		◇OGIメモを活用させ、生徒のメモ力を養成し、計画性を持ち、自立した学校生活を送らせる。	
						○自分のスケジュールを管理することで、計画的に先を見通して行動できる力を身につけさせる一歩として、OGIメモの活用を促している。 ○生徒からの要望を受け、OGIメモを冬服のポケットに入るサイズに改良した。 ○前期末のOGIメモ活用コンクールの実施により、すぐれた活用事例を生徒に紹介するとともに、活用への意欲を高める工夫をおこなった。 ●活用状況の芳しくない生徒のためには、日常の継続的な指導が必要である。	・終礼時等に、メモの活用を促す取組が不十分であったので、全職員でOGIメモ活用の意義再確認し、足並みをそろえて指導するようにする。 ・生徒が積極的に活用していかうとする意識を育てるため、生徒のすぐれた活用事例を収集し普及するような取組を実施する。			

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	検証結果(自己評価)		学校関係者評価	
					評価	重点的取組・取組指標の実践 今後の改善策		
3 分掌システムを有効に機能させながら、それぞれの業務内容の確認とさらなる向上を図る。	①ミドルリーダーの分掌マネジメント力が向上する。 ②分掌システムが機能し、円滑に業務が回ることにより、教員の分掌業務に関する負担感が軽減する。 ③常に改革に取り組みながら、学校を前に進める意識を教職員が持つ。	学校が抱える課題を明白にして、部・課長会議で十分議論し、情報を共有する。	課題の解決のために、部や課が何ができるか具体的に学年に提案し、学年の担当が主体的に動く。	PL 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長	3	○学校運営企画会議(月1限)を受けて、毎週部課長会議で協議をおこない、その上で運営委員会へ各課の提案を行うシステムが定着しつつある。 ○部全体の懸案事項や今後の計画等について共有することができ、課を超えて業務の協力を依頼しやすくなった。 ●部・課長会議での決定内容を、課内の担当者を通じて各学年に十分に伝わらないことがあり、分掌と学年の連携が不十分となる場合があった。	・各部長が、部内各課の業務計画の進捗状況を適切にマネジメントするとともに、他分掌や学年との連絡調整についても確実にこなす。 ・情報伝達、共有のためにOENメールを活用していく。	◇業務遂行の効率化と教職員の育成という観点において、重要な取り組みである。 ◇まだ取り組みを初めて間もないので課題があるのは仕方ない。一つ一つを解決しながら継続することが大切である。
		各部・課の目標達成に向け計画どおりに進捗しているか点検を行い、PDCAを確実に実行する。	学校運営企画会議(月1限)→各部・課会議→運営委員会(木4限)→職員会議(月1回)の流れを確実にし、報連相の徹底を図り、具体的に行動する。	PL 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長	3	○学校運営企画会議(月1限)を受けて、毎週部課長会議で協議をおこない、その上で運営委員会へ各課の提案を行うシステムが定着しつつある。 ●業務が集中する時期に各部内での検討が遅れ、他分掌や学年との調整が不十分な状態で運営委員会提案がなされ、再提案を余儀なくされたケースがあった。	・部長、運営委員の役割を自覚し、学校運営企画会議や運営委員会の内容を部・課長会議で伝え、必要なことは職員に伝達していくことを徹底する。 ・各課長は業務計画の早めの着手を心がけ、部内での十分な検討と分掌間の調整等を密にする。	
		職員の意識を「文武両道の推進」「人間力の育成」に基づいた教育活動に繋がるようにする。	校長の強いリーダーシップのもと、職員会議等で、具体的に明快な学校経営ビジョンを提示し、職員の共通理解を図る。	PL 管理職、 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長	3	○校長の学校経営ビジョンは明解であり、全教職員が方向性一つにして、それぞれの立場で具体的に行動しようとしている。 ○学校の組織改革の中で、一部業務の分担が未整理の分野が残っており、次年度に向けて調整を行っている。	・部課長制を生かす中で、全学年を通じた基本的な取組と各学年主任の創意工夫のある学年経営の双方を生かすしくみを模索する必要がある。 ・懸案事項については、教頭・主幹教諭を中心とした関係者による検討を速やかにおこない、解決策を学校運営企画会議で提案・検討する。	
4 創立50周年に向け、県下ナンバーワンの進学校としてシステム作り、基盤作りに取り組む。(10年間の学校推進プランを計画する。)	教職員が学校作りを参画し、協働体制の構築を行う中で、新しい教育観を育成する。	10年後の雄城台のあるべき姿を議論する場を設け、進むべき方向を検討する。	①毎週月曜に開く学校運営企画会議を雄城台創立50周年に向けた「雄城台ビジョン50」を策定するための諮問機関として機能させる。 ②全職員で雄城台の将来について議論する全体協議会を年2回開く。	PL 管理職、 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長	2	○校長から大分雄城台高校ナンバーワン構想(人材育成ナンバーワン、PTA・同窓会との連携ナンバーワン、地域に信頼される学校ナンバーワン)が提起されている。 ○主幹教諭を中心に50周年に向けた本校のグランドデザイン(原案)を作成し検討に着手した。 ●学校運営企画会議が当面の課題についての検討に追われることが多いため、年度末までを見通した計画的な検討が必要である。	・単位制普通科高校としてのこれまでの取組を検証し、今後の本校のあり方を検討する研修会での意見をもとに、次年度以降の計画を策定していく。	◇中学生・保護者だけでなく同窓生や地域住民の期待は大きい。ナンバーワン構想が実現するように、具体的方策を立てて実行していかなければならない。
		中学校、地域や保護者に信頼され、敬愛される学校づくりにさらに取り組む。	①オープンスクールの企画をさらに充実させ、中学校での高校説明会を積極的に行う。 ②保護者に積極的に声をかけ、PTA総会(報告会を含む)の出席率90%以上を目指す。 ③学校HP(2週に1回以上更新)や広報誌(毎月発行)を使い、雄城台の今を発信する。 ④同窓会との連携をさらに強くし、50周年に向けて共同体制を作る。	PL 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長	4	○6月末に実施したオープンスクールには、生徒・保護者・教員合わせて約1000名が参加。11月のミニオープンスクールには約30名が参加。企画・説明内容への感想も好評だった。 ○5月中旬のPTA総会は、昨年度の86%を上回る88.7%の参加率があった。また8月17日に開催した「クリーンアップ雄城台」には保護者、同窓会から約240名の参加があり、教職員・生徒とともに環境整備を実施した。 ○10月に1、2年生で地域貢献活動を実施。宗方、穂田地区の環境美化活動を行った。 ○HPも昨年を上回るペースで更新しており、学校広報誌「雄城坂」の発行も継続している。	・オープンスクール、PTA総会については、本年度のアンケート結果をもとに来年度に引き続く改善案を策定する。 ・HPや学校広報誌をはじめとする広報については、取材から作成までを担当課だけで行うことには無理があり、各分掌からの情報提供等、協力体制をつくる。	